1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名 ： Aユニット ）

事業所番号	0671300333		
法人名	医療法人社団みゆき会		
事業所名	グループホーム笑顔		
所在地	山形県上山市弁天二丁目2番45号		
自己評価作成日	平成 21年 10月 26日	開設年月日	平成 18年 3月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）
（公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桧町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 21 年 11 月 17 日	評価結果決定日	平成 21 年 12 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム笑顔は入居者様の「笑顔」が絶えない、明るく、あたたかみのあるグループホームを目指し、スタッフ一同で取り組んでいます。敷地内には、同じ法人が運営している病院、老人介護保険施設、通所リハビリ事業所、訪問看護ステーションなどが併設されており、医療面での連携、急変時の対応や行事への参加、勉強会の開催や参加などの協力体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「地域の方々と共に、笑顔の絶えない、明るくあたたかみのある生活」を理念に掲げ、職員はその実現を目指している。運営母体が医療法人であり、病院、老人保健施設、訪問看護ステーション等が敷地内に併設されていることから、利用者にとっては医療面での安心感が保たれている。建物内はあたたかみがあり、明るく広い空間で、大きな窓からは蔵王山の四季の移ろいを眺望できる。職員は認知症ケアの専門研修等を受講し、日々スキルアップを目指しながら、その人らしさを大切にしたケアの実践に取り組んでいる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1．ほぼ全ての利用者の
			2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1．ほぼ全ての家族と
		○	2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
			2．数日に1回程度
		○	3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1．大いに増えている
		○	2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1．ほぼ全ての職員が
			2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての家族等が
			2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1　自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	**○理念の共有と実践** 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で話し合い、具体化し、地域密着型サービスとしての理念を、3つの項目に整理して作り上げている。いつでも確認できる所へ掲示し、日々の業務に反映できるようにしている。	事業所の名称である「笑顔」をキーワードに、「明るく楽しい生活」「その人らしさを尊重した生活」「なじみの仲間との共感、支え合い」を事業所独自の理念としてをつくりあげ、玄関や事務室に掲示する他、朝のミーティングで唱和し意識付け、日々のケアで実践している。	
2	(2)	**○事業所と地域とのつきあい** 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体での夏祭りや文化祭の共同での実施と参加、市内で開催される行事にも参加し、地域の方との交流を図っている。自治会長との協議を進めていはいるが、自治会への参加はできていない状況である。	夏祭りや文化祭に地域住民を招いたり、かかし祭りに作品を出展、見学に出かけたりするものの、自治会加入についてはその必要性を認識しているが、実現には至っておらず、日常的な交流は少ない現状である。	事業所自体が地域の一員として日常的に交流していくことが地域の中で暮らし続けることにつながることから、更に地域交流推進についての取組に期待したい。
3		**○事業所の力を活かした地域貢献** 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様との定期的な交流会の中で、認知症の方の理解や支援方法を伝えている。また、法人全体での夏祭りや文化祭を共同で実施し、入居者様の手作り作品の展示を行ったりしている。		
4	(3)	**○運営推進会議を活かした取組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとに開催し、現状やサービスの取組み内容を報告し、会議出席者から頂く、様々なご意見やアドバイスを参考にし、取り組み内容を見直し、サービス向上に活かしている。	2ヶ月毎に開催し、利用状況やサービスの実際、外部評価制度への取組状況等について報告や話し合いが行われている。しかし、メンバーは利用者、家族、市職員、包括職員にとどまっており、地域住民の代表等の参加が得られていないのが現状である。	グループホームが地域密着型サービスとして機能していく為には、地域の代表者等の参加が必要であり、民生委員や婦人会代表等も含めて構成メンバーの検討を期待したい。
5	(4)	**○市町村との連携** 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外に、市のサービス調整連絡会議に参加したり、市役所への訪問時に相談、情報提供、アドバイスを頂くように努力している。	2ヶ月に1回開催される、市サービス調整連絡会議に参加し、情報交換を行う他、介護保険手続や認定調査時に市職員に対し、事業所運営における課題を相談し、助言を得ている。また、毎月発行の「笑顔便り」を届けに行く等日常的な協力関係を築いている。	
6	(5)	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	スタッフ全員に対し、身体拘束に値する行為やその弊害について、正しく理解できるように伝達している。入居者様の安全面に配慮しながら、安楽にすごせるように工夫し、取り組んでいる。	身体拘束の弊害等についての法人内研修を実施したり、ユニット会議で個別ケースごとに話し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中、玄関は施錠を行わず、外出しそうな利用者がいる場合は職員がさりげなく見守ったり、付添うようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員に対し、虐待に値する行為やその弊害について、正しく理解できるように伝達し、取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全員に対し、権利擁護に関する制度について、正しく理解できるように伝達している。現在活用している方と関係者との調整や今後活用の必要な方への支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点が残らないように十分な説明を行っており、何かあれば、いつでも連絡してもらえる体制を整えている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様への声掛け、ご家族様からの意見箱の設置、面会時の声掛けにより、意見を聞き出し、運営推進会議での報告を行うと共に、それらの意見を検討し、運営に反映させている。	家族面会時等を利用し、言い出しやすい雰囲気づくりをしながら、積極的に意見要望を引き出すように声掛けしている。また、寄せられた意見に対して、迅速な対応を心掛け、ミーティングで検証し、運営推進会議で報告するとともに、以後の運営に役立てている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや個人面談の場で、意見や提案を聞く機会を設け、検討し、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの資格や等級に応じた業務内容、給与水準を設定し、さらに向上心を持って働けるように努めている。		
13	（7）	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの資格や等級に応じた役割、目標を掲げ、その達成に向けた働きかけを行っている。また、勉強会や研修に積極的に参加できる機会の確保に努めている。	経験やスキルごとに、法人研修計画に基づき、研修を行っている。外部研修についても受講した職員から伝達を行い、情報の共有を図っている。また、新規の異動職員に対して、地域密着型サービスの特性を踏まえ、ユニットリーダーの下、2週間程度のOJTを行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県や村山地区のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換や訪問研修を実施している。	県並びに村山地区グループホーム連絡協議会に参加し、同業者との情報交換を行っている。また、定期的に職員交換研修を実施し、他事業所のケアの工夫や新たな気づきを会議等で報告し、職員間で共有することでサービスの質の向上に繋げている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査で得た情報をもとに、本人との会話の機会を多く設け、不安や要望を受け止め、信頼感を得てもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査や面談を通し、家族の不安や要望を受け止め、信頼感を得てもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、支援の必要内容を見極め、他の関係者への連絡調整を図りながら、対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間を共有しながら、本人から学んだり、支えてもらうことが必要であることを認識してもらえるように関わっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居する段階で、家族の必要性について説明を行い、入居後も日常的な面会や必要な支援、物品の相談などを通し、本人を共に支えていく関係を認識してもらえるように関っている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでに大切にしてきた、馴染みの買い物や外食先へ出掛けたり、友人などの面会が途切れないよう支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係を把握し、関わり合いや支え合う関係が継続できるように、スタッフが介入したり、環境作りなどの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設への退居の際は、面会を行ったりしている。また、必要に応じ、ご家族様との面談を行い、相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中から、一人ひとりの思いや希望を聞き出し、本人の意向に添えられるように対応している。また、困難な場合には、ご家族様や日々の関わりから得られた情報をもとにして検討し、対応している。	担当職員が、なじみの関係を活かし、普段の会話やふれあいの中から意向を把握し、センター方式アセスメントを記入している。把握が困難な場合は、家族等からの情報収集に努め、その人らしさを大切にして利用者の立場になって検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査で得た情報に加え、本人やご家族様との日々の関わりや会話の中からこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らしの現状について、スタッフ同士での情報交換を行い、情報の共有・把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中で、現在の課題と支援内容について、評価を行いながら、話し合い、本人やご家族様の意見を取り入れた介護計画を作成している。	3ヶ月に1回、目標達成状況、サービスの実施状況、ADLの把握等モニタリングを行っている。本人、家族の希望や担当職員の意見を取り入れ、臨機応変に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などを個別に記録し、情報共有している。また、支援内容に変化のあった場合には、介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じ、地域の公共的施設の利用、オムツ支給などのサービスを活用できるように支援している。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族様の希望するかかりつけ医にご家族様やスタッフが付き添って受診している。状態変化があった場合には、電話連絡を行っている。	利用前のかかりつけ医の継続を尊重しているが、隣接する協力医療機関受診の利便性から自らの希望により、かかりつけ医を変更する場合が多い。職員が受診支援するケースには、主治医に対して日常生活を伝える等の連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で捉えた情報や気づきを、看護職員に伝えて相談しており、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の関係者との連絡調整、情報交換などを行い、安心して治療できるように努めている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人･ご家族様の意向を踏まえ、医師や医療相談員などの関係者と話し合いを行い、方針を共有し、支援するよう取り組んでいる。	看取りに関する指針を作成し、職員体制や事業所として対応可能な範囲を具体的に説明している。本人、家族の思いや希望を把握し、利用者状況の各段階に応じて話し合いを行っていく体制が整備されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、速やかに医療との連携を行っている。AEDの取り扱い方の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、消火訓練を行っており、また、災害時には同じ敷地内にある他の施設からの協力を得られる体制を整えている。	消防署や隣接施設からの応援、協力を得て、年2回、昼、夜間想定の避難訓練や消火訓練を実施している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーの確保について、正しく理解できるよう伝達し、スタッフ全員で取り組んでいる。	本人の思いを理解し、相手を受け入れることに努め、個人の尊厳を大切にしながら、声かけの工夫や接遇について、会議で個別的に話し合っている。また、個人記録は事務室のみで保管し、個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりや会話を多く持ち、本人の思いや希望を表せやすいように努め、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣や考えなどのペースを大切にしており、希望に沿って支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装を本人と一緒に選んだり、自分で化粧水や眉描きなどができるよう支援している。また、本人の希望する美容室に行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の食べたいもの、好きなものを作る機会(週3回、昼食)を設け、一緒に準備し、一緒に味わいながら、食事を楽しむことのできるよう取り組んでいる。	原則的に米飯、汁物、漬物以外は配食サービスを利用しているが、毎週火、金、日曜日の昼食を利用者の希望や旬の食材を取り入れ、職員と利用者が一緒に調理や食事をする機会を設けている。また、盛り付け、後片付けは毎食時、共同で行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好き嫌いや摂取量の程度の把握を行い、嗜好品を促したり、代替え品を提供したりし、栄養摂取や水分確保に努めている。その中で随時、敷地内の施設の管理栄養士からアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせ、声がけや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄のパターン、習慣などを把握し、トイレでの排泄を促している。また、自立に向け、排泄動作の中で、できない部分のみをさりげなく支援している。	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄習慣や傾向を把握し、さりげない声かけを行っている。比較的自立の利用者が多く、自尊心に配慮し、支援については必要最小限にとどめながら、可能な限りトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や軽い体操、こまめな水分促し、個別に食物の促しを行い、予防に努めている。また、排泄チェック表を活用し、排便の有無に応じ、下剤内服支援を行い、定期的に排泄できるようにしている。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望する日や時間帯、湯加減に合わせ、対応している。音楽をかけたり、ゆず湯にするなど、入浴を楽しむことができるよう支援している。また、一般浴の困難な場合には、敷地内の施設にある特別浴での入浴を行っている。	利用者の習慣や好みを把握しながら、その日その日の思いの実現に向けて、こまめな湯加減調整や毎日の入浴等の対応をしている。また、入浴を拒む利用者についても、声かけを工夫して入浴を促し、一人ひとりに応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や考えに合わせ、安心して休息や就寝ができるよう、関わりや声掛けを行い、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の内容の説明書により、把握し、一人ひとりに合わせた服薬の支援を行っている。また、症状の変化を観察し、主治医への報告を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物干しや食器洗いなどの家事や草取り、水掛けなど、一人ひとりができることを継続できるように支援している。また、得意なことや好きなことを把握し、発揮できるように、関わりを持っている。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブなど、その日の希望に合わせ、日常的な外出支援を行っている。また、家族や地域の人々と協力しながら、自宅や行き慣れた場所への外出などができるように支援している。	外気浴や日光浴の為の散歩や日用品、茶菓子の買物等利用者の要望や必要性に応じて、日常的な外出の支援を行っている。また、家族の協力を得ながら墓参り、一時的な帰宅、なじみの飲食店に出かける等その人らしく暮らし続けるための支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金への理解が困難な方以外は、家族の了解を得た上で、自分で所持してもらっており、買い物の時には、自分で支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、電話の利用や手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、不快感や不安を感じないように配慮しながら、整理整頓しており、壁には入居者様の作品や季節感のある掲示物を一緒に作成し、飾っている。	居間や廊下等の共用空間には、利用者と職員が協力して制作した刺子、パッチワークの暖簾や季節ごとに飾付けを施し、生活感や季節感のあるものを活用し、自宅の延長として生活の場を整えている。また、浴室脱衣所とトイレをつなげ、利用者が使い易く、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間には、椅子の他にソファーを設置しており、思い思いに過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族様と相談しながら、暖簾やテレビ、冷蔵庫など使い慣れたものや遺影や家族写真などを持ち込んでもらい、本人が安心して、居心地よく過ごせるように配慮している。	利用前の生活スタイルや希望を把握し、生活環境の継続を目指し、畳敷きでの対応等個別的に支援している。また、テレビ、家族写真等かけがえのないものやなじみのあるものを持ち込んでもらえるよう積極的に働きかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を活かし、排泄や洗面など自分でできるよう、安全面に配慮している。また、自室に名札をつけたり、目印をつけることで分からなくならないよう工夫している。		